

日本工営株式会社

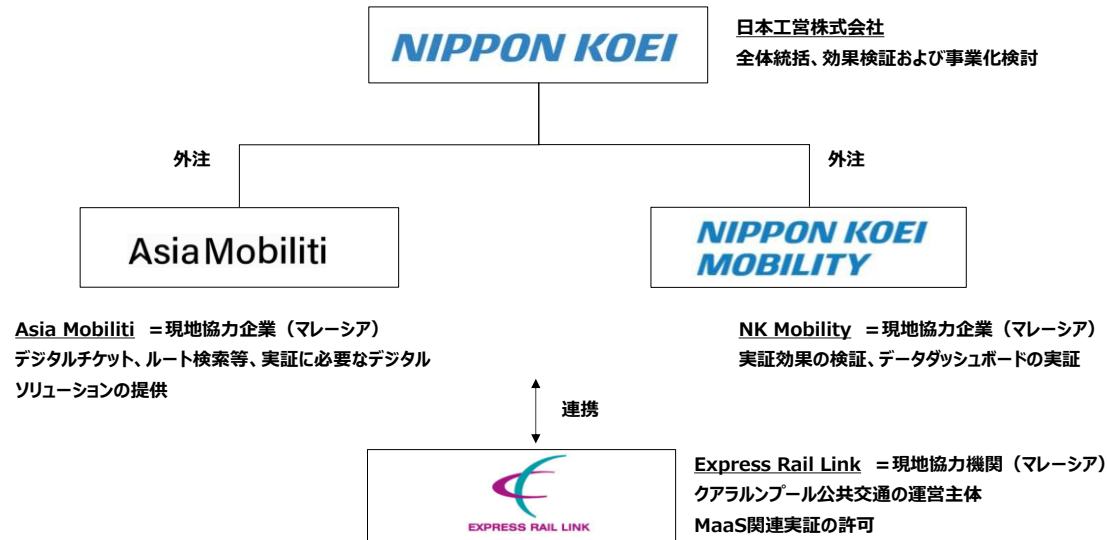


クアラルンプールにおける端末交通と公共交通との統合によるMaaS実証事業

本事業の目的

本事業は、クアラルンプールにおける公共交通統合による利便性向上を目標とし、鉄道やバス等の既存公共交通とオンデマンド交通との一体的な利用を可能とするための実証事業を行い、公共交通の利用促進効果を検証するものである。オンデマンド交通と公共交通とを統合した、デジタルチケットとルート検索機能の試行、公共交通の運行最適化に向けたデータ分析ダッシュボードの構築を行った。

現地企業や政府との協力・連携

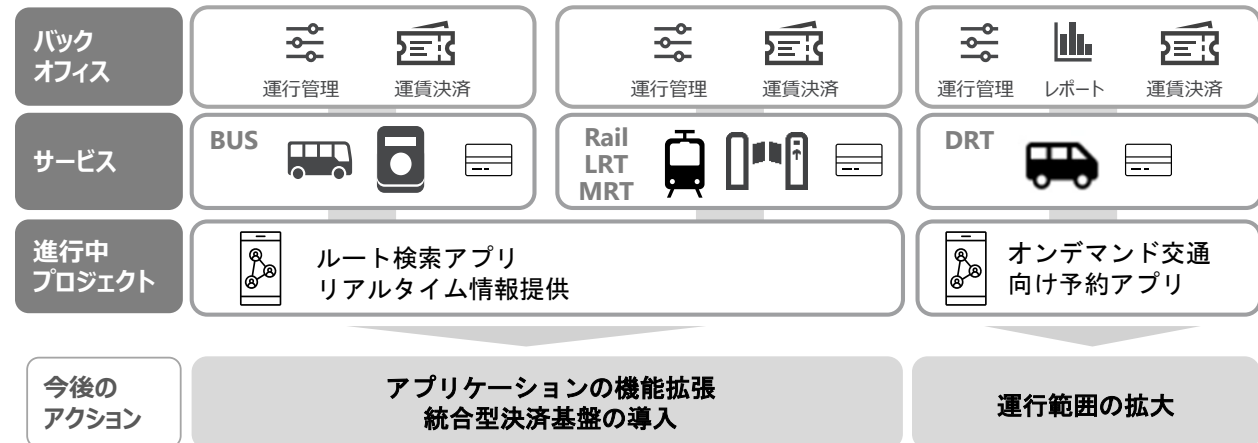


現地の経済・社会課題

クアラルンプールでは、自動車への依存度が非常に高く、急速な都市化に伴って交通渋滞が深刻化しており、今後の経済成長や生活の阻害要因となり得る状況となっている。自動車への依存度が高い要因として、軌道系公共交通を中心に公共交通網が整備されているにもかかわらず、端末交通の不足による利便性の低さが考えられる。

同都市では、軌道系交通とバス交通とを組み合わせたルート検索アプリの実装や端末交通としてのオンデマンド交通の実証などが推進されてきた。

本事業は、これらの取組と連携し、都市圏全域の移動サービスの運行最適化と利用促進への発展を目指すものである。



日本工営株式会社



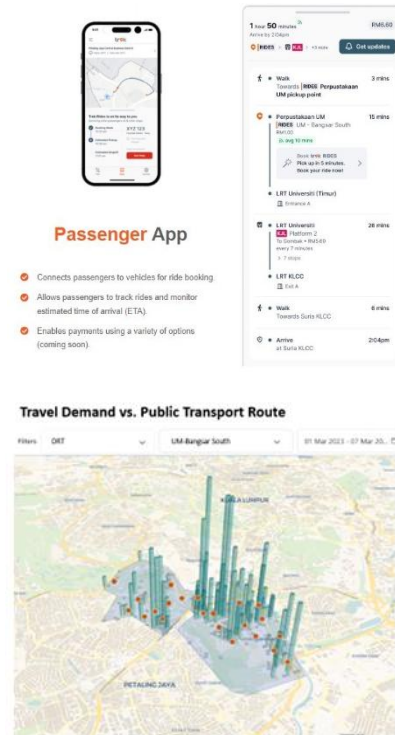
クアラルンプールにおける端末交通と公共交通との統合によるMaaS実証事業

実証期間

2023年8月～2025年1月

実証した内容

1. オンデマンド交通のチケットと既存の軌道系公共交通のチケットを統合したデジタルチケットの発行による乗継利用の利便性向上に向けた実証を行った。
2. オンデマンド交通と既存公共交通を統合したルート検索機能を、オンデマンド交通の利用者アプリに実装し、端末交通と既存公共交通の適切な乗継利用ルートの提供に向けた実証を行った。
3. 端末交通と既存公共交通の利用実態や人流データ等による移動需要に関するデータを集約し、交通事業者の運行改善への活用を想定したダッシュボードの構築に向けた実証を行った。



事業の成果/今後の予定

デジタルチケットやルート検索の機能を実装し、公共交通の利便性向上に向けた可能性や期待の把握を行った。KPIの評価結果を以下に示す。

ルート検索数：オンデマンド交通の利用者数と連動して順調に推移

デジタルチケット販売：連携するオンデマンド交通の利用者不足に伴い、チケット販売が不調であったため、周知活動も含めた利用者のニーズ把握調査を実施、複数交通手段向けのチケットに対するニーズを確認

データダッシュボード：オンデマンド交通の運行主体でもある Asia Mobitili社との意見交換を定期的に行い、交通サービスの運行改善に向けたデータ活用ケースを3ケース提案

同都市において、オンデマンド交通のサービス拡大が続いていることから、今回実証したサービスに対するニーズが、高まっていくことが期待される。

今後、今事業の実施機関が連携し、公共交通事業者（Prasarana等）に対し、今回機能の実装や連携に向けた営業活動を展開する。本事業を通じて構築したダッシュボードを用いた、端末交通や公共交通の運行改善に向けたデータ分析サービスを付加価値として、提案することが可能である。さらに、本事業成果をもとに、他地域でのMaaS事業の提案を進めている。